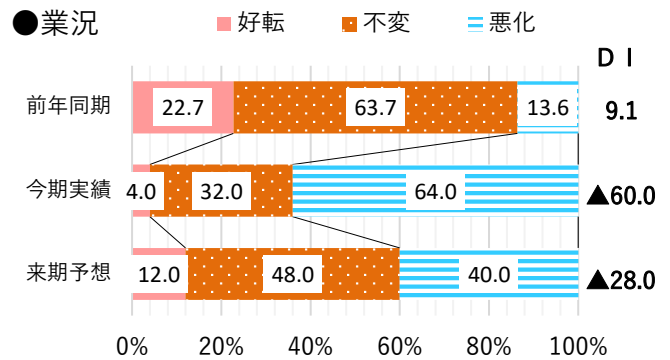


卸 売 業

業況、売上、採算

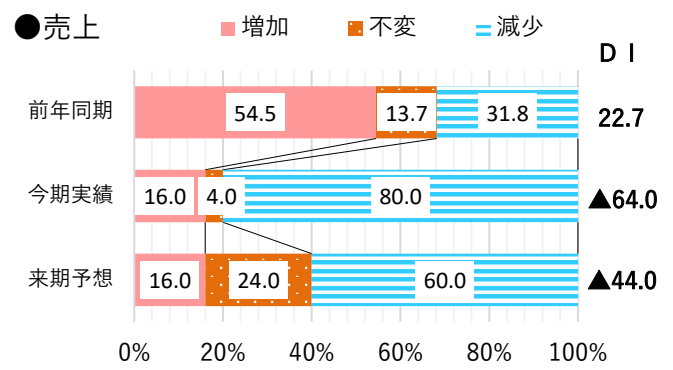
今期(2020.7~9)の業況判断DIは▲60.0で、前年同期(2019.7~9)と比べ69.1ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期(2020.10~12)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



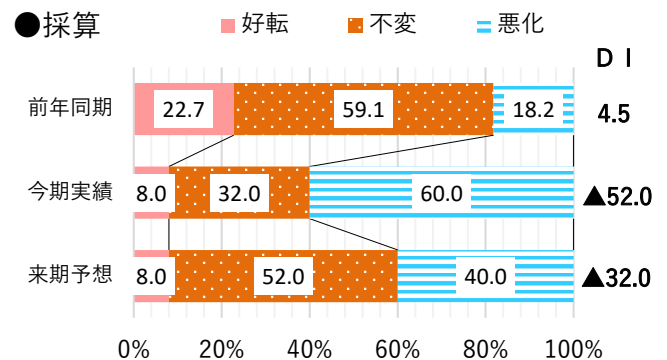
今期の売上DIは▲64.0で、前年同期と比べ86.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

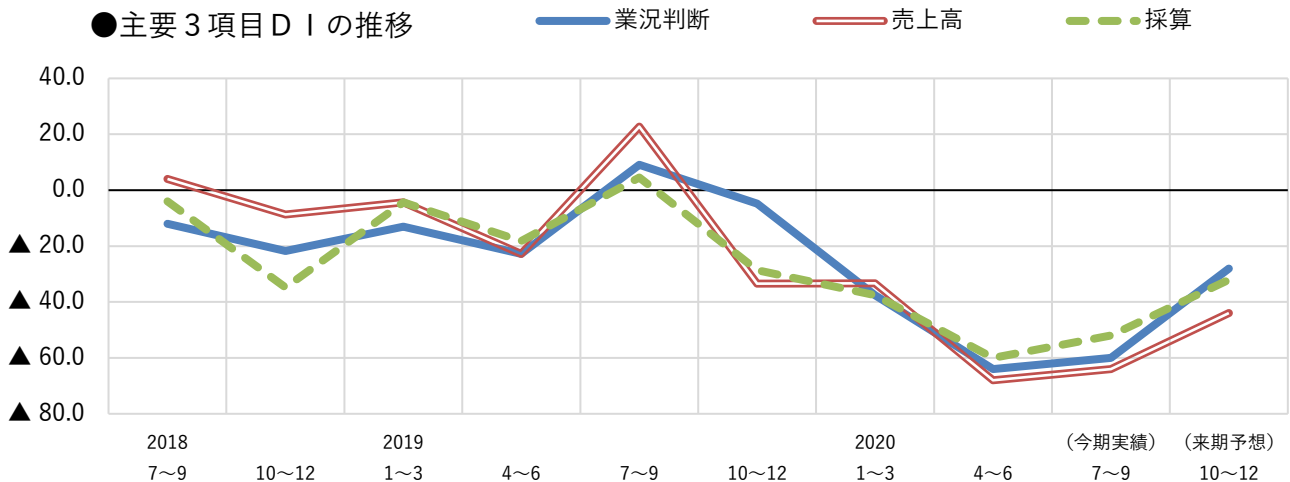


今期の採算DIは▲52.0で、前年同期と比べ56.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



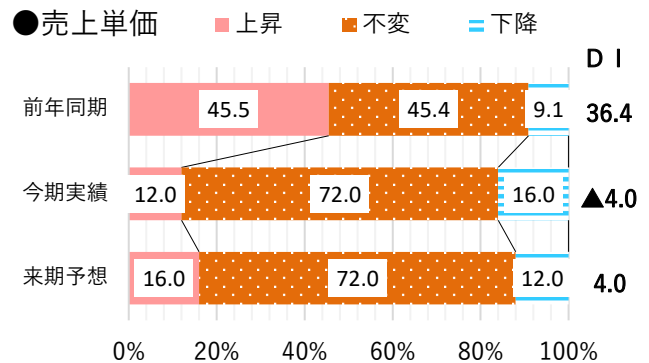
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

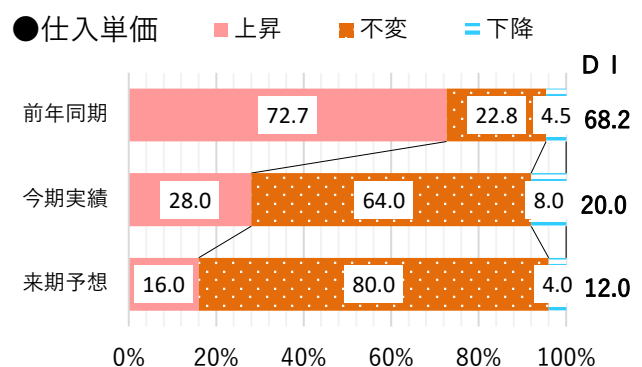
今期の売上単価DIは▲4.0で、前年同期と比べ40.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価が上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは20.0で、前年同期と比べ48.2ポイント低下し、大幅に下降しました。

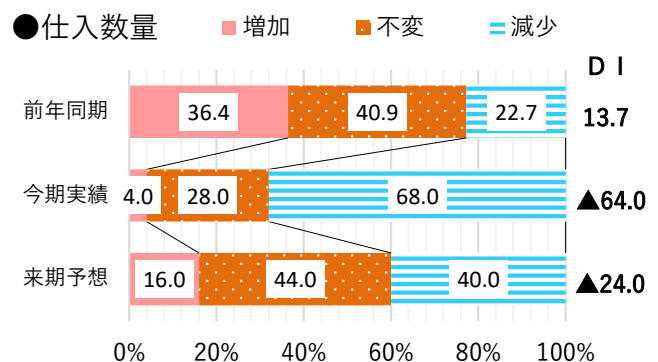
来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

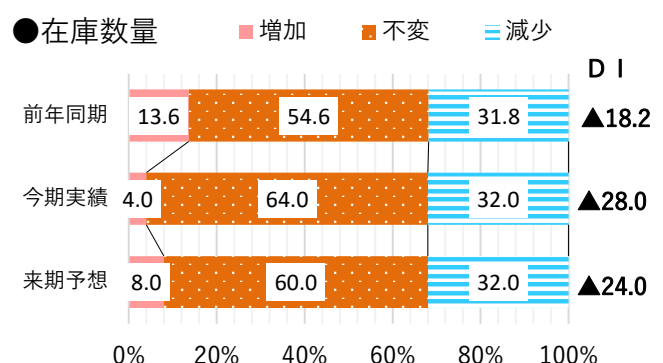
今期の仕入数量DIは▲64.0で、前年同期と比べ77.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、仕入数量の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲28.0で、前年同期と比べ9.8ポイント低下しました。

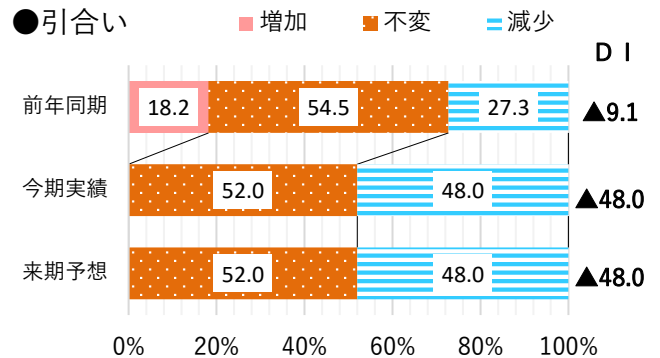
来期は、在庫数量の減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲48.0で、前年同期と比べ38.9ポイント低下し、大幅に減少しました。

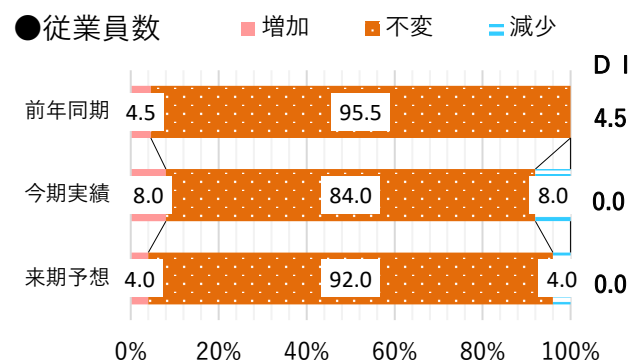
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



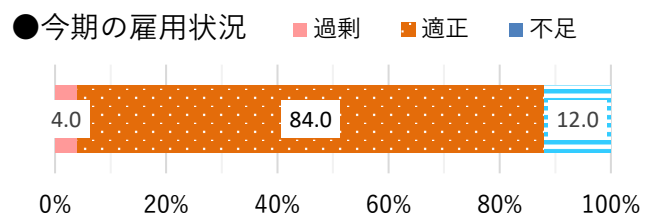
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.0%、適正であると回答した企業の割合は84.0%、不足していると回答した企業の割合は12.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の68.0%を占めています。

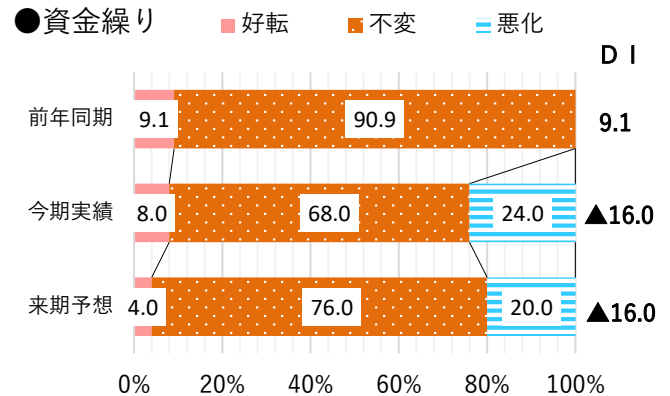
次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	17
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

資金繰り、設備投資

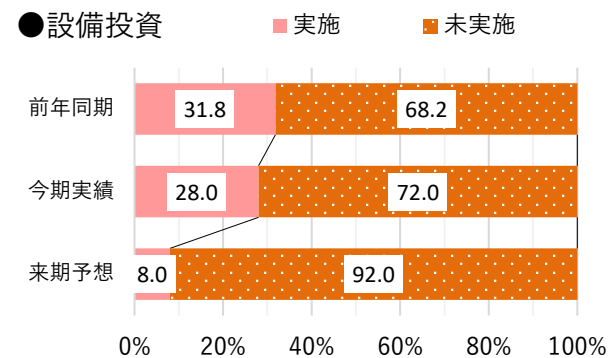
今期の資金繰りDIは▲16.0で、前年同期と比べ25.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



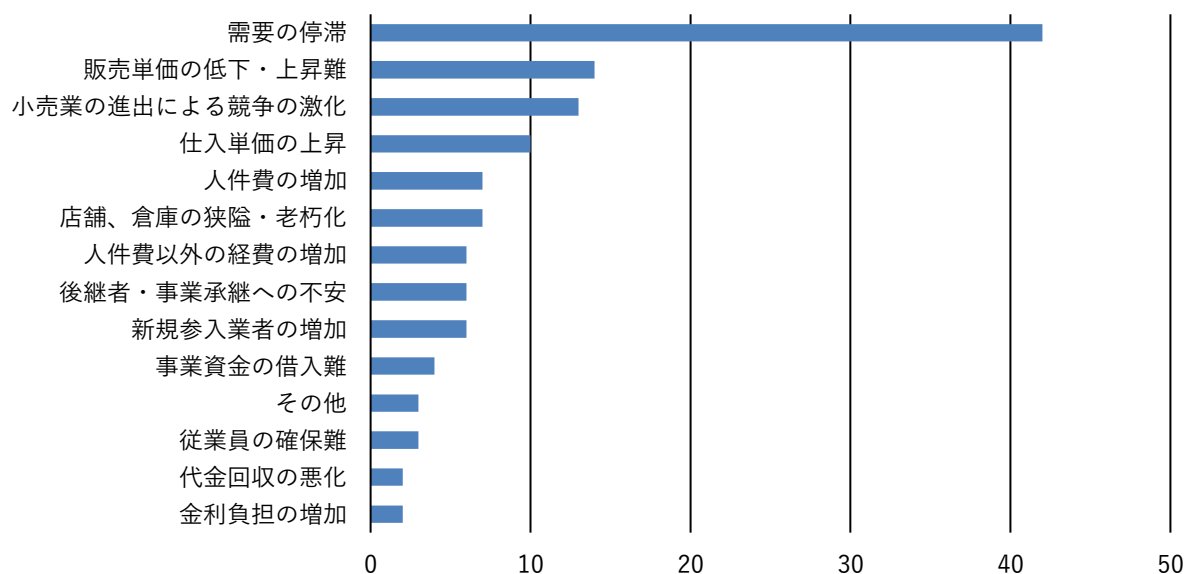
設備投資を実施した企業の割合は28.0%で、前年同期と比べ3.8%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「店舗」、「OA機器」、「福利厚生」、「その他」(同位)でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は8.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「販売単価の低下・上昇難」、3位が「小売業の進出による競争の激化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 下期以降の引合い減少により、売上が減少した。採算は前年同期比で悪化した。（電気機械器具卸売）
- 石油価格が低下したため、売上と仕入価格が低下した。（石油卸売）
- 北海道新幹線工事、余市～共和間高規格道路建設工事の需要が好調である。セメント、骨材、鋼材等の売上が増加した。（建築材料卸売）
- 観光関連業種への売上が減少した。国内観光客数は回復傾向にあるが、アジア圏の海外観光客が来ないと厳しい。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルスによる休業、閉店、自粛等が発生しており、業況の好転要因は見当たらなかった。（食料・飲料卸売）
- 好調だった前年同期と比較して売上が減少したが、例年と同程度の額で推移したため、悲観していない。（鉱物・金属材料卸売）
- 例年季節の変わり目の売上が良いため、冬に向けての商品需要の高まりに期待する。（自動車部品卸売）
- 例年と比べ、売上が増加した。新型コロナウイルスの補助金に関連して、引き合いが増加した。（事務用品卸売）
- 市内向けの売上が伸長しない。新型コロナウイルスの影響は小さく、例年程度の売上だった。（塗料卸売）

[来期の業況について]

- 今期の業績と同等になれば良い方だと思われる。（電気機械器具卸売）
- 新型コロナウイルスの状況が予想できないため、見通しを立てられない。（包装資材卸売）
- 原油価格が安定するため、業況は大きく変わらないだろう。（石油卸売）
- 北海道新幹線工事（後志地区）の工事がピーク期に入る為、建設資材の需要増が見込まれるが、原材料、運搬車両の供給不足も懸念される。（建設材料卸売）
- 新規工事物件が少なく、売上の減少が見込まれる。今期まで新型コロナウイルスの影響は小さかったが、投資意欲の減退が一層強まり、苦戦すると思われる。（鉱物・金属材料卸売）
- 10月～12月は冬期用品の在庫と売上が増加する。多雪の年である様に願う。（自動車部品卸売）
- 補助金関係の業務があれば、売上の増加が期待できる。（事務用品卸売）
- 新型コロナウイルスは終息しないと思うが、経済活動は活発になってきたため、売上増加を図りたい。（塗料卸売）